

Y B2-2

ミャンマーサイクロン災害におけるロジスティクス要員の活動

熊本赤十字病院

○菅篠 恭裕、宮田 昭、鈴木 隆雄

本年5月に発生したミャンマーサイクロン災害において、国際赤十字のロジスティクス要員として、ヤンゴン空港に到着した救援物資等のエア・オペレーションをミャンマー赤十字社スタッフと行った。非常に困難な状況における活動を振り返り、今後の類似の災害と被災国の社会体制との関係、そしてアジア地区におけるロジスティクスの今後の課題と展望を行いたい。

Y B2-3

スマトラ島沖地震復興支援活動～水上安全法普及支援事業の取り組み～

日本赤十字社千葉県支部 総務課¹

日本赤十字社 事業局 国際部 国際救援課²

○津田 直人¹、神定 真潮¹、高橋 満徳¹、
ペティート タク²

2004年12月に発生したスマトラ島沖地震は、死者及び行方不明者の総数が22万人を越えた未曾有の災害となり、周辺各国に多大なる被害をもたらしました。日本から7500km、遠く離れたスリランカにおいても、各国赤十字社による緊急支援活動が行われ、日本赤十字社もその一員となり、医療チームを派遣、救護活動を展開しました。その後、復興に向けた様々な取り組みが行われ、日本赤十字社では、住宅建設支援や病院機能強化、職業訓練などの支援を現在も行っています。千葉県支部では、災害対策の一環として行われている水上安全法普及支援活動について、現在までに7回、延べ14名の水上安全法有資格者職員を現地に派遣し、現地赤十字社の職員及びボランティアに対して、普及体制確立の助言や技術指導を行っています。今回は、本事業の進捗状況と今後の見通し、また、保健衛生活動など医療職を中心として行われてきた開発協力活動との違いを考察します。